

市を取り巻く財政等の状況

1 市の人口推移

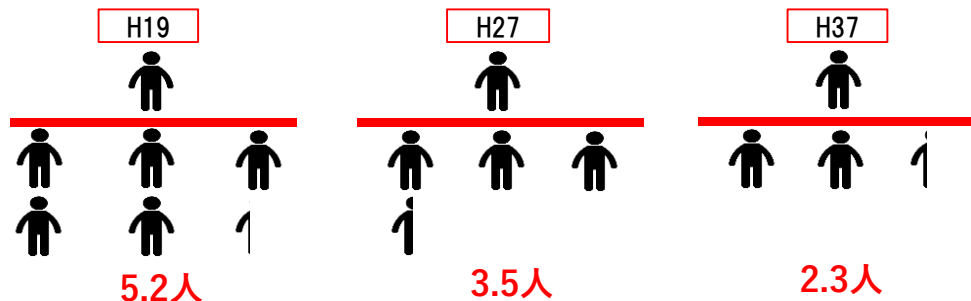
- H19の見直しから約10年が経過し、社会動態、経済環境が急速に変化
- 団塊の世代が75歳を迎えるH37には、高齢化率が37.2%まで上昇
- 一方、社会保障財源を支える生産年齢人口は今後10年間で△8,254人（△17%）

市の人口推移（10月1日現在）

単位：人

区 分	H19	H27	H37（推計）	H27⇒H37
総 人 口	92,635	85,059	77,570	△7,489
年少人口（～14歳）	11,097	9,111	8,393	△718
生産年齢人口（15～64歳）	57,923	48,541	40,287	△8,254
高齢者人口（65歳～）	23,615	27,407	28,890	+1,483
高齢化率（65歳以上の割合）	25.5%	32.2%	37.2%	+5.0%
75歳以上（再掲）	11,066	13,852	17,182	+3,330

75歳以上の方1人に対して
支える人（15～64歳）は？



2 財政の状況（参考：中長期財政計画 H25～H34）

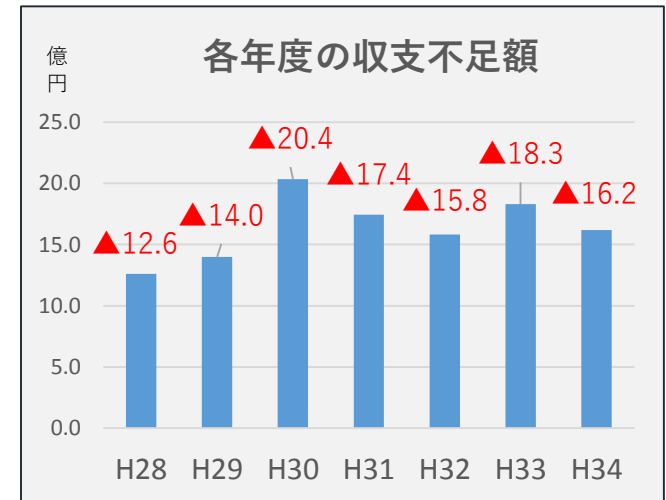
- 生産年齢人口（15～64歳）の減少等の要因により、安定的な歳入確保が困難
- 一方、歳出では社会保障関係経費の増嵩に加え、生活に密接に関係する公共施設建設等の大型プロジェクトを予定
- 財政収支の悪化が想定⇒H25～H34（10年間）で**計114億円の収支不足**

（1）今後の歳入推計

H25年度歳入	H34年度歳入(推計)	H25-H34(10年間)
488億7,200万円	430億6,400万円	▲58億800万円（平均 ▲5億8千万/年）

（2）今後建設予定の大型公共施設スケジュールと経費（183.9億円）

	H27	H28	H29	H30	H31	H32
緑が丘霊園（H23～H32）	12.6億円					
学校給食共同調理所（H27～H30）	29.4億円					
栗沢支所（H26～H29）	4.6億円					
し尿処理施設（H27～H30）	2.4億円					
消防署（H27～H29）	25.5億円					
学校耐震工事（H24～）	59.4億円					
市庁舎建設（～H32）			50.0億円			



3 社会保障関連予算の状況（民生費社会福祉費）

■社会福祉費：障がい、高齢者、乳幼児医療など社会保障に係る予算

○急速な高齢化の進行等により、医療費、介護費用等が増大（24.2億円増/10年）

○H20からは75歳以上を対象とする「後期高齢者医療制度」創設

○人口推計からも、今後、社会保障関連費の爆発的な増加が想定

	H19当初	H29当初	増減
社会福祉費全体	53.7億円	77.9億円	24.2億円



【増加した主な事業】		H19当初	H29当初	増減
	障害者福祉費	13.9億円	29.7億円	15.8億円
	国民健康保険費	8.4億円	9.5億円	1.1億円
	後期高齢者医療費	0	15.1億円	15.1億円
	介護保険費	8.2億円	12.4億円	4.2億円

4 市福祉施策の状況

○施策の状況として、以下の3類型に分類

- 「補助事業」 ⇒全国的に一定の行政水準を維持するため法令等に基づき、
国等の補助を受けて実施
- 「上乗せ事業等」⇒補助事業等で、市の経費を投入し、国の補助基準を上回って実施
- 「単独事業」 ⇒市の行政需要を満たすため、市独自の経費で任意に実施

